

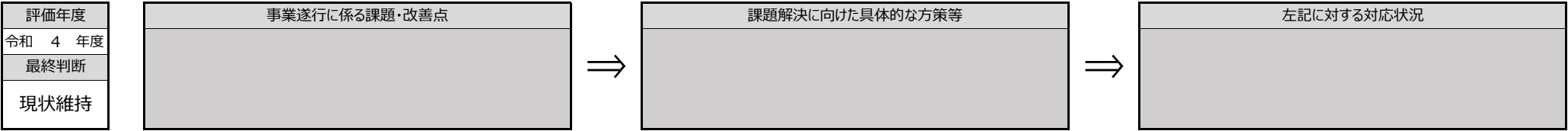
事務事業マネジメントシート

【 評価年度： 令和 7 年度 】

事務事業の概要・基本情報

事務事業名	体育大会補助事業		会計区分	1	一般会計		所管部署	社会教育課			
事業番号	5040		予算科目	10	款	6 項 2 目	教育費	シート入力	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
評価の種別	☒ 詳細評価 ☐ 簡易評価（事業の概要・結果のみ）		事業区分	政策的事業【任意】 ☐ 重要事業							
総合計画での位置づけ	基本目標	生涯学習都市の創造					所属長名	岡市	岡市	小笠原	
	基本施策	誰もが親しめるスポーツ・レクリエーションの振興					担当責任者	堀内	堀内	伊予岡	
根拠法令等	スポーツ基本法、社会教育法、教育基本法、伊予市社会体育大会等出場助成金交付要綱										
関係する計画等											
事業の目的 【ゴール】 目指すべき姿を簡潔に	対象	愛媛スポ・レク祭及び愛媛県スポーツ少年大会参加者					事業開始年度	☒ 平成 17 年度 ☐ 令和 ※合併前からの継続事業は平成17年度と入力			
	意図	参加者・派遣費を支給し、大会への参加を促進することで、市民の健康増進、スポーツ・レクリエーションの普及促進を図る。									
事業内容 【アクティビティ】 具体的な内容、 どのような方法で 実施しているのか	大会参加費、派遣費（助成金）の支給										
事業の実施方法	☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 指定管理 ☒ 補助金・負担金等 ☐ その他（ ）										
連携事業及び 関連事業の有無	☐ あり（以下に記載すること） ☒ なし		事務事業の概要 【連携事業】 一体的に実施している事業 【関連事業】 関係が深い事業								
	事業番号	事務事業の名称									
本事業とSDGs (持続可能な開発目標) との関連性	☐ ゴール 1 貧困をなくそう ☐ ゴール 2 飢餓をゼロに ☒ ゴール 3 すべての人に健康と福祉を ☐ ゴール 4 質の高い教育をみんなに ☐ ゴール 5 ジェンダー平等を実現しよう ☐ ゴール 6 安全な水とトイレを世界中に ☐ ゴール 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに ☐ ゴール 8 働きがいも経済成長も ☐ ゴール 9 産業と技術革新の基盤をつくろう ☐ ゴール10 人や国の不平等をなくそう ☐ ゴール11 住み続けられるまちづくりを ☐ ゴール12 つくる責任つかう責任 ☐ ゴール13 気候変動に具体的な対策を ☐ ゴール14 海の豊かさを守ろう ☐ ゴール15 陸の豊かさを守ろう ☐ ゴール16 平和と公正をすべての人に ☐ ゴール17 パートナースhipで目標を達成しよう										

前回評価の振り返り



事業活動への投入コスト・人員【インプット】

予算額・執行額及び財源内訳（千円）						事業費の内訳							
項 目		R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 要求	例 年 支 出 の あ る も の 臨 時 的 な も の	節	細 節	事業費（千円）				摘 要 ※代表的なものを簡潔に
予 算	当 初 予 算	785	2,611	2,643	2,664				R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 要求	
	補 正 予 算	0	0	0	0		報償費		0	1,430	1,310	1,600	全国大会出場選手激励費
	前年度から繰越	0	0	0	0		需用費	消耗品費	0	89	199	200	全国大会優勝選手祝福懸垂幕
	予 備 費 等	0	0	0	0		役務費	通信運搬費	0	11	10	19	激励会案内郵送料等
	計	785	2,611	2,643	2,664		負担金・補助及び交付金	補助金	683	500	688	845	大会出場助成金
決 算	執 行 額	683	2,030	2,207									
	翌年度へ繰越	0	0	0									
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0	0	0								
	県 支 出 金	0	0	0	0								
	地 方 債	0	0	0	0								
	そ の 他	0	0	0	0								
	一 般 財 源	683	2,030	2,207	2,664								
	執行率（％）	87.0%	77.7%	83.5%									
当初予算＋補正予算に 対する執行額の割合(%)		87.0%	77.7%	83.5%									
正規職員の人工数		0.15	0.15	0.15									
1人当たりの人件費単価		7,794	7,765	7,895		上記以外の事業費合計							一般事務費、上記で書き表せないもの
※ 執行額＋人件費		1,852	3,195	3,391		事業費の総計			683	2,030	2,207	2,664	

事業活動の実績【アウトプット】

活動実績の達成度を測る指標				単位	目指す 方向性	R 4	目標 実績	R 5	目標 実績	R 6	目標 実績	達成度		令和 4 年度の振り返り	令和 5 年度の振り返り	令和 6 年度の振り返り
活 動 指 標	指 標 ①	愛媛スポ・レク祭出場助成件数	団体	➡		7		13		15		目標達成 (100%以上)		愛媛スポ・レク祭、愛媛県スポーツ少年大会への参加費と派遣費を助成することにより参加を促進することができた。	愛媛スポ・レク祭、愛媛県スポーツ少年大会への参加費と派遣費を助成することにより参加を促進することができた。	愛媛スポ・レク祭、愛媛県スポーツ少年大会への参加費と派遣費を助成することにより参加を促進することができた。
	指 標 ②					13		15		16		かなり達成 (80%以上)				
	指 標 ③	愛媛県スポーツ少年大会出場助成件数	団体	➡		5		12		12			課 題 へ の 改 善 提 案	幅広い年代が参加できる大会補助であり、参加について一層の周知に努める。	幅広い年代が参加できる大会補助であり、参加について一層の周知に努める。	幅広い年代が参加できる大会補助であり、参加について一層の周知に努める。
	指 標 ④					12		8		12						

事業活動の成果【アウトカム】

成果指標	想定される事業活動の成果		活動成果の達成度を測る指標		単位	目指す方向性	R	4	目標実績	R	5	目標実績	R	6	目標実績	達成度	左記の指標が設定できない場合は、事業実施によって評価期間内に発現した定性的な成果を記入
	中期成果	スポーツに対する意欲の向上	指標①														
																	少子化の中、スポーツ少年団の数も減ってきているが、少しでも事業継続ができるよう支えていく。
			指標②														
			指標③														

事務事業の評価

所管における事務事業の評価	自己判定	妥当性	目的の妥当性	4 上位施策の達成に不可欠な事務事業であり、事業の目的を見直す必要はない 3 上位施策の達成に必要な事務事業であり、事業の目的を見直す余地が少ない 2 上位施策の達成に必要な事務事業であるが、事業の目的は検討の必要がある 1 上位施策の達成に向け、事業の目的は見直しが必要である	4	評価点ランク		A	参加者に派遣費を支給することで大会への参加を促進し、市民の健康増進やスポーツ・レクリエーションの普及を図ることができた。伊予市スポーツ協会と連携し、所属団体への周知を行ったことで、参加者の増加にもつながった。		
			市民・社会ニーズへの対応	4 市民ニーズ・社会ニーズの有無に関わらず、実施する必要がある 3 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが増加傾向にある 2 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが現状維持傾向にある、又は、市民ニーズ・社会ニーズが限定的である 1 市民ニーズ・社会ニーズが減少傾向にある、又は、市民ニーズ・社会ニーズが曖昧である		3	A			9 ~ 10	
			サービス主体の妥当性	4 本事業は市が直営で実施すべきものである 3 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、適切に導入している 2 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、導入の範囲に検討の余地がある 1 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきだが、導入できていない			2			C	5 ~ 6
		有効性	成果指標の達成状況	4 目標を上回って達成できた（100％以上の達成） 3 概ね達成できた（80％以上の達成） 2 やや達成がでなかった（50％以上の達成） 1 達成できなかった（50％未満の達成）	3	評価点ランク			A	スポーツ大会への参加者は年々増加しており、スポーツの促進が図られている。一方で、市民に対する助成金であるという認識が十分に伝わっておらず、要項の修正が必要である。	
			成果向上の可能性	4 既に相応の成果を得ているが、今後も成果向上の余地がある 3 成果向上が期待でき、事業継続の必要がある 2 成果は低調であるが、手法等の改善によって成果向上の余地がある 1 今後の成果向上は見込めない		3	S				11 ~ 12
			市民等への影響	4 本事業がなくなると、不特定多数の市民・団体等に重大な影響がある 3 本事業がなくなると、特定の市民・団体等に重大な影響がある 2 本事業をなくしても、市民・団体等への影響は少ない 1 本事業をなくしても、市民・団体等への影響はほとんどない			3				A
		効率性	手段の最適性	4 現状では最善の手段であり、他の手段を検討する必要はない 3 他の手段もあるが、現状の手段が望ましく、改善の必要性は低い 2 現状の手段が望ましいとは言えないため、他の手段も検討すべきである 1 現状の手段ではなく、他の手段に変更すべきである	2	評価点ランク			B	現在は参加料と参加人数に応じて助成金を支給しているが、大会当日に欠席者が出た場合、変更手続きが必要となり、受益者の負担が生じている。そのため、一律の支給額とするなどの見直しが必要である。	
			コストの最適性	4 コストの削減・効率化の成果により、これ以上、改善の余地はない 3 コストの削減・効率化を適切に進めており、改善の必要性は低い 2 コストの削減・効率化に努めているが、成果が十分ではないため、積極的な改善が必要である 1 コストの削減・効率化の成果が全く得られておらず、抜本的な改善が必要である		2	S				11 ~ 12
			受益の適正性	4 事業の性質上、受益者負担を求めるものではない 3 公平なサービスを提供し、適正な受益者負担を求めている 2 ある程度の公平なサービスを提供しているが、受益者負担には見直しの余地がある 1 対象者に偏りがあるなど公平なサービスとはいえない、又は、ある程度の公平なサービスを提供しているが受益者負担をしていない			3				A
	担当者					C		5 ~ 6			
	一次判定	自己判定結果の確定			☑ 上記のとおり自己判定を確定し、本結果を踏まえて以下のとおり貢献度・重要度を判定します					所属長の所見	
		貢献度	S 市政全体の成果向上に与える影響が、非常に高い事務事業 A 上位施策の成果向上に与える影響が、高い事務事業 B 上位施策の成果向上に一定の影響をもつ事務事業 C 上位施策の成果向上に直接的な影響は弱い事務事業 D 当初位置付けた必要性が薄れており、事業推進が期待できない事務事業 ※既に休止・廃止が決定している事務事業も含む	判定区分	S	非常に高い	B	本事業は、市民のスポーツ大会参加を促進することで、健康増進やスポーツ・レクリエーションの普及につながっており、妥当性・有効性が認められる。今後は、助成金の趣旨をより明確に伝えるため要項の見直しが求められるほか、事務負担軽減の観点から助成金の支給方法についても、一律支給など効率性を高める工夫が必要である。今後も関係団体と連携しながら、より効果的な運用を図る。			
			重要度		S 市政全体からみても、重要度が非常に高いと判断される事務事業 ※自然災害等の緊急事態に対応する事務事業も含む A 上位施策の視点からみても、重要度が高いと判断される事務事業 B 上位施策への貢献度も踏まえ、目標の達成に向けて現状の計画に沿って推進していく事務事業 C 上位施策への貢献度も踏まえ、統合・縮小を検討すべき事務事業 D 上位施策への貢献度も踏まえ、休止・廃止を検討すべき事務事業 ※既に休止・廃止が決定している事務事業も含む	A			高い		
						B	普通		B		
						C	低い				
	所属長				D	非常に低い					